

うちの地域はどうなるの？都道府県別の内申点・計算ルール一覧

不登校の中学生を持つ親御さんにとって、「いつの学年の成績から影響するのか」が一番知りたいポイントですね。

実は、内申点の仕組みは全国一律ではなく、都道府県によって驚くほどバラバラなんです。

「うちの地域は、中1や中2の成績も計算に入るの？」

「実技(副教科)はどれくらい重く見られるの？」

こうしたお住まいの地域のリアルなルールを知っておくことが、無理のない高校受験への第一歩になります。

基本的な内申点は、以下のような仕組みで計算されます。

基本の計算方法

評価される対象学年の強化×5段階評価＝内申点

ここから下に、全国の都道府県別のルールをまとめました。

全部を読む必要はまったくありませんので、ご自身の住んでいる都道府県の欄だけ、サッと探して確認してみてくださいね。

※なお、**2026**年度入試から制度が変わる都道府県もあります(奈良県など)

こちらの表はあくまで参考としていただき、最終的には必ずお住まいの教育委員会の公式サイトもチェックしておくところに安心です。

内申点の計算方法

評価される対象学年の教科 × 5段階評価 = 内申点

なお、2026年度入試から制度が変わる都道府県もあります。

この表はあくまで参考情報です。必ずお住まいの都道府県・市区町村の教育委員会公式サイトで最新情報をご確認ください。

北海道・東北

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
北海道	中1～中3 / なし(全教科均等)	中1・中2:各×2(各90点)、中3:×3(135点) =315点満点	推薦も同じ計算方法
青森県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年 =135点満点(一般選抜)	特色化選抜では学校ごとに傾斜配点あり
岩手県	中1～中3 / 副教科は主要5教科の1.5倍	主要5教科:中1×2・中2×4・中3×6、副教科:中1×3・中2×6・中3×9、合計660点を圧縮し500点満点	中3の評定は12月31日現在
宮城県	中1～中3 / 副教科×2(共通選抜)	5教科の評定+副教科×2の各学年合計 =195点満点(共通選抜)	5教科に0.25～2.0倍、副教科に0.5～4.0倍の換算率
秋田県	中1～中3 / 副教科×2	各学年:主要5教科+副教科×2=65点、3学年合計=195点満点	2023年度入試から3年間全て対象に変更
山形県	中3のみ / なし	9教科×5段階=45点	中1・2の成績は参考

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
		満点(一般選抜)	資料として考慮
福島県	中1～中3 / 副教科×2	各学年:主要5教科+副教科×2の合計、3学年計=195点満点(一般選抜)	特別活動等を55点満点で加点する学校あり

関東

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
茨城県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年=135点満点	中3は1月末までの成績が反映
栃木県	中1～中3 / なし(基本)	9教科×5段階×3学年を500点満点に換算	各高校・学科が換算方法を設定
群馬県	中1～中3 / なし(基本)	9教科×5段階×3学年=135点満点(基本)	学校・学科により調査書の影響度が異なる
埼玉県	中1～中3 / なし	各学年45点満点、学年比は学校により「1:1:2」「1:1:3」「1:2:3」など	中3を重視する高校が多い。特別活動等も点数化
千葉県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年=135点満点×K値(K値は0.5～2で各校設	特別活動等は最大50点加点

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
		定)	
東京都	中3のみ / 副教科×2	主要5教科+副教科×2=65点満点(一般選抜)※3教科入試校は75点満点	推薦は9教科合計45点満点。ESAT-Jも加算
神奈川県	中2～中3 / なし(基本)	中2:45点、中3:×2(90点)=135点満点	一部高校・学科で3教科以内×2倍の傾斜配点あり

中部・北陸

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
新潟県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年=135点満点	-
富山県	中2～中3 / なし(学年で倍率差)	中2:45点、中3:×2(90点)+特別活動等15点=150点満点	特別活動等を含む
石川県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年=135点満点(参考資料)	具体的な換算方法は各高校により異なる場合あり

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
福井県	中3のみ / なし	9教科×5段階=45点満点	中1・2の成績も調査書に記載されるが可否判定には不使用
山梨県	中1～中3 / 主要5教科×2・副教科×3	3学年分の合計(後期募集)+特別活動等30点	前期募集は学校・コースにより異なる
長野県	中3のみ / なし	9教科×5段階=45点満点(後期選抜)	総合学習・特別活動の記録も資料として使用
岐阜県	中1～中3 / なし	中1・中2:各45点、中3:×2(90点)=180点満点	-
静岡県	中3のみ / なし	9教科×5段階=45点満点	中3の2学期末(12月末)までが対象
愛知県	中3のみ(一般) / なし(基本)	9教科×5段階×2=90点満点(一般選抜)	美術科・音楽科等は傾斜配点あり。推薦は中2も参照
三重県	中3のみ / なし	9教科×5段階=45点満点(基本)	学校により傾斜配点あり

近畿

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
滋賀県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年 =135点満点(基本)	学校により傾斜配点あり
京都府	中1～中3 / 副教科×2(中期選抜)	前期:135点満点、中期:主要5教科+副教科×2の3学年合計 =195点満点	前期は学校ごとに独自設定
大阪府	中1～中3 / なし(学年で倍率差)	中2:45点、中3:×2(90点)=135点満点。換算時は中1×2・中2×2・中3×6の計450点に換算	学力検査と調査書活用方法が複雑
兵庫県	中3のみ(一般) / 副教科×1.875	主要5教科の合計×4+副教科の合計×7.5=250点満点(一般選抜)	内申点の比重が全国でも高い。中1・中2も参考資料に
奈良県	中2～中3(現行) / なし(現行)	現行:中2 45点・中3×2で135点満点。2026年度から制度変更	2026年度から大幅変更予定。公式サイトを確認
和歌山県	中1～中3 / なし	中1・中2 各45点、中3×2で180点満点	-

中国・四国

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
鳥取県	中3のみ / なし	5教科+副教科×2=65点満点	学校により加点や傾斜配点あり
島根県	中1～中3 / なし(学年で倍率差)	中1・中2各45点+中3×2(90点)の計180点を圧縮(51点)+特別活動9点=60点満点	特殊な圧縮計算を用いる珍しい制度
岡山県	中1～中3 / なし(基本)	中1・中2各45点、中3は5教科×2+副教科×3で200点満点	学校間格差調整のための独自補正あり
広島県	中1～中3 / なし	中1・中2各45点、中3は9教科×3で225点満点(学年比1:1:3)	学校により傾斜配点あり
山口県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年=135点満点(基本)	-
徳島県	中1～中3 / 各学年の副教科×2	中1・中2・中3 5教科+副教科×2で195点満点	-
香川県	中1～中3 / 中3の副教科×2(実質×4)	中1・中2:各45点、中3:主要5教科×2+副教科×4(130点)=220点満点	中3の成績は1月15日までが対象
愛媛県	中1～中3 / なし	中1・中2・中3 各45点×3=135点満点	第2選抜では特別活動等も点数化

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
高知県	中1～中3 / 副教科×2(各学年)	中1・中2:各65点、中3:10段階評価で130点=260点満点	中3に10段階評価を使う全国でも珍しい制度

九州・沖縄

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
福岡県	中3のみ / なし(基本)	9教科×5段階=45点満点(基本)	学校ごとに独自の換算方法を設定
佐賀県	中1～中3 / なし	9教科×5段階×3学年=135点満点	特別活動等の記録も点数化
長崎県	中1～中3 / なし	中1・中2・中3 各45点×3=135点満点	-
熊本県	中1～中3 / なし	中1・中2 45点、中3×2で180点満点	学力検査5教科は当日点で補正した数値を使用
大分県	中1～中3 / 非公開	中1・中2各65点、中3 130点の合計260点満点(一般的)	中3は12月末日までの成績が反映
宮崎県	中3のみ / なし(基本)	9教科×5段階×3学年	学科により特定教科

都道府県	対象学年 / 副教科の倍率	計算方法・満点	備考
		=135点満点	の傾斜配点あり
鹿児島県	中3のみ / 副教科×20倍	主要5教科×2+副教科×20=450点満点	実技教科の比重が極めて高い県独自の制度
沖縄県	中1～中3 / 副教科×1.5	各学年:主要5教科+副教科×1.5=55点×3学年=165点満点	特色選抜では独自の計算方法を用いる学校あり

※「うちの県、中1から全部計算に入る…」と絶望しなくて大丈夫ですよ！

一覧を見て、もしお住まいの地域が「中1や中2の成績もすべて合算される県」だったとしても、絶対に諦めないくださいね。

そういった地域でも、前述した「自己申告書」で不登校の事情をしっかりと考慮してもらえたり、当日のテストの点数で十分に挽回できる仕組み(K値など)がちゃんと用意されています。

持ち点が減っていると知るとどうしても焦ってしまいますが、だからこそ「今からでもオンライン学習などで出席や成績をカバーしていくこと」が、何より強力な対策に繋がっていきますよ。